

# RENESAS TECHNICAL UPDATE

〒211-8668 神奈川県川崎市中原区下沼部1753  
 ルネサス エレクトロニクス株式会社  
 問合せ窓口 <http://japan.renesas.com/contact/>  
 E-mail: [csc@renesas.com](mailto:csc@renesas.com)

製品分類	MPU & MCU	発行番号	TN-RX*-A111A/J	Rev.	第1版
題名	RX111グループフラッシュメモリのFASR.EXSビットに関するユーザーズマニュアルの誤記訂正		情報分類	技術情報	
適用製品	RX111グループ	対象ロット等	関連資料	RX111グループ ユーザーズマニュアルハードウェア編 Rev.1.10 (R01UH0365JJ0109) RX111グループ 製品改訂に伴う仕様の変更について (TN-RX*-A110A/J) RX111グループフラッシュメモリに関するユーザーズマニュアルの誤記訂正 (TN-RX*-A109A/J)	
		全ロット			

RX111グループ ユーザーズマニュアル ハードウェア編 Rev.1.10 の「35. フラッシュメモリ」章において FASR.EXSビットに関する記述に誤記がありましたので、以下のとおり訂正いたします。

## 〈訂正内容〉

### •Page 1105 of 1244

「35.4.8 フラッシュ領域選択レジスタ (FASR)」のEXSビットの説明文を以下のとおり訂正いたします。

#### 【訂正前】

FEXCRレジスタを使用したエクストラ領域書き込みを行う場合は“1”にします。  
 エクストラ領域のプログラム時以外は“0”にしてください。

#### 【訂正後】

エクストラ領域に対するソフトウェアコマンド(ユニークIDリード、スタートアップ領域情報プログラム、アクセスウィンドウ情報プログラム)を発行する前に“1”にします。また、ユーザ領域に対するソフトウェアコマンド(プログラム、ブロックイレーズ、ブランクチェック)を発行する前に“0”にします。

ソフトウェアコマンド発行後は、次のソフトウェアコマンドの発行まで値を変更しないでください。

• Page 1126 of 1244

「35.7.3 ソフトウェアコマンド使用方法」の「(3) プログラム/イレーズ方法手順」の図35.10を以下のとおり訂正いたします。

【訂正前】

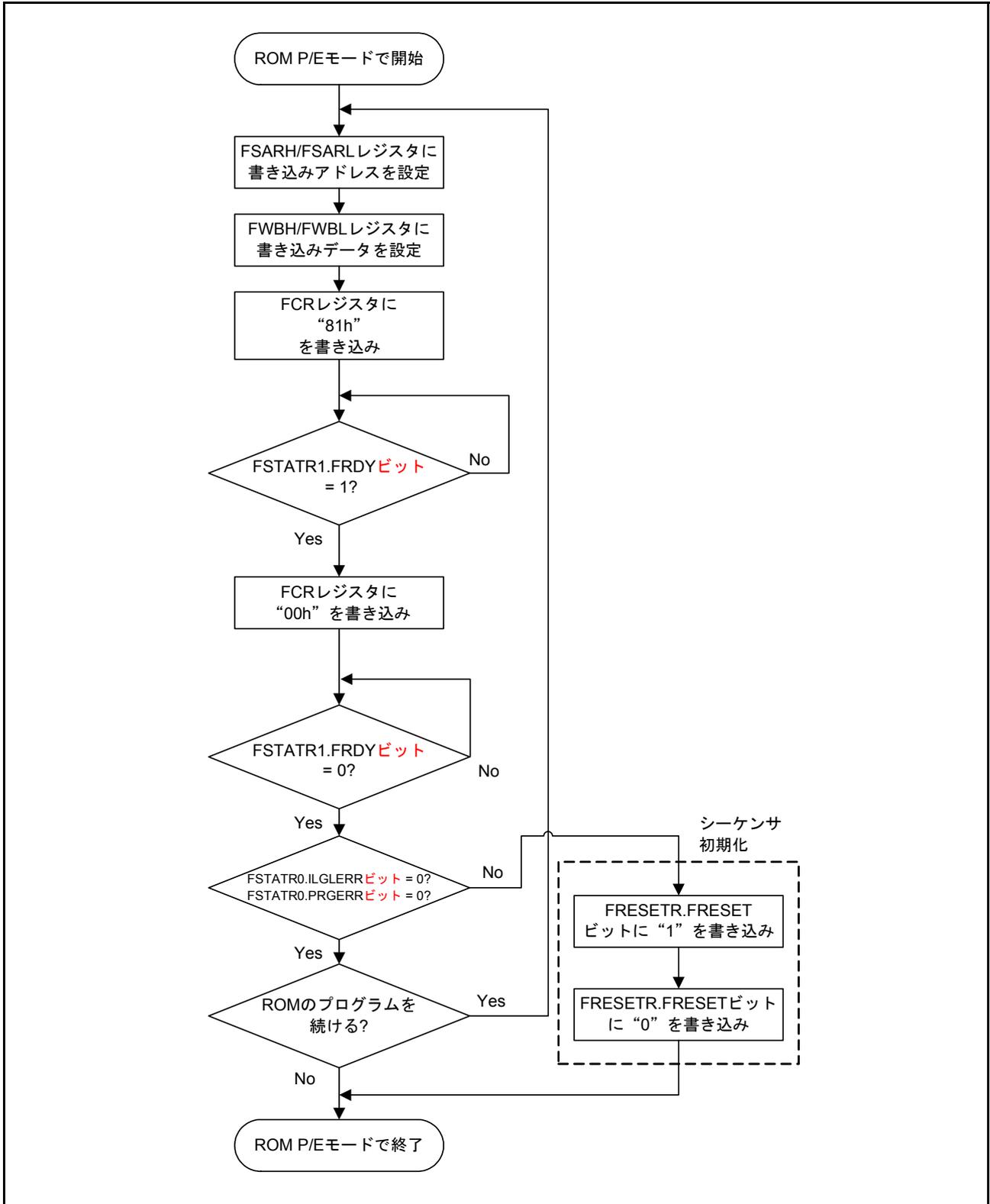


図35.10 プログラム方法手順 (ROM)

【訂正後】

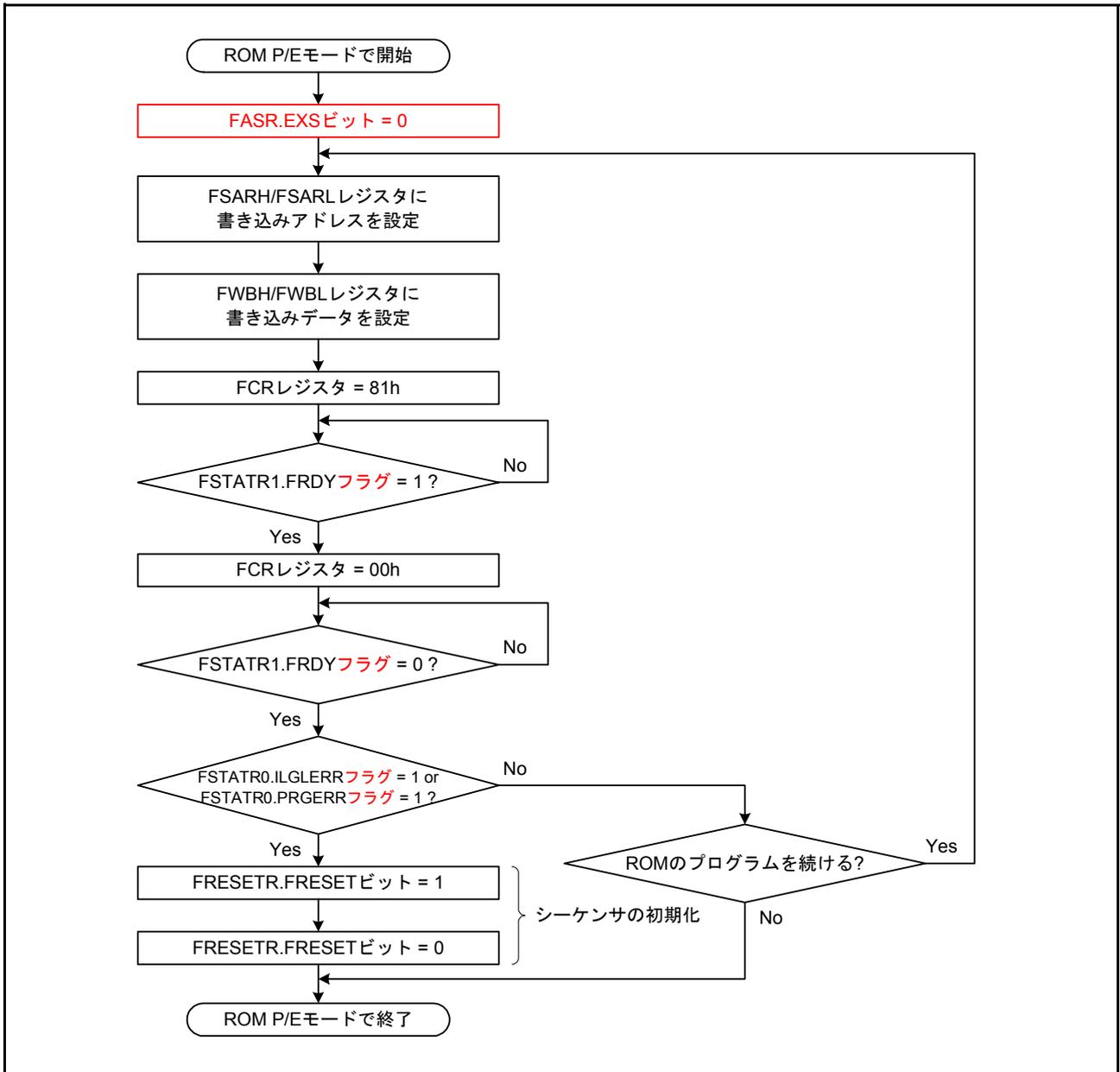


図35.10 プログラムコマンドの発行フロー (ROM)

• Page 1127 of 1244

「35.7.3 ソフトウェアコマンド使用方法」の「(3) プログラム/イレーズ方法手順」の図35.11を以下のとおり訂正いたします。

【訂正前】

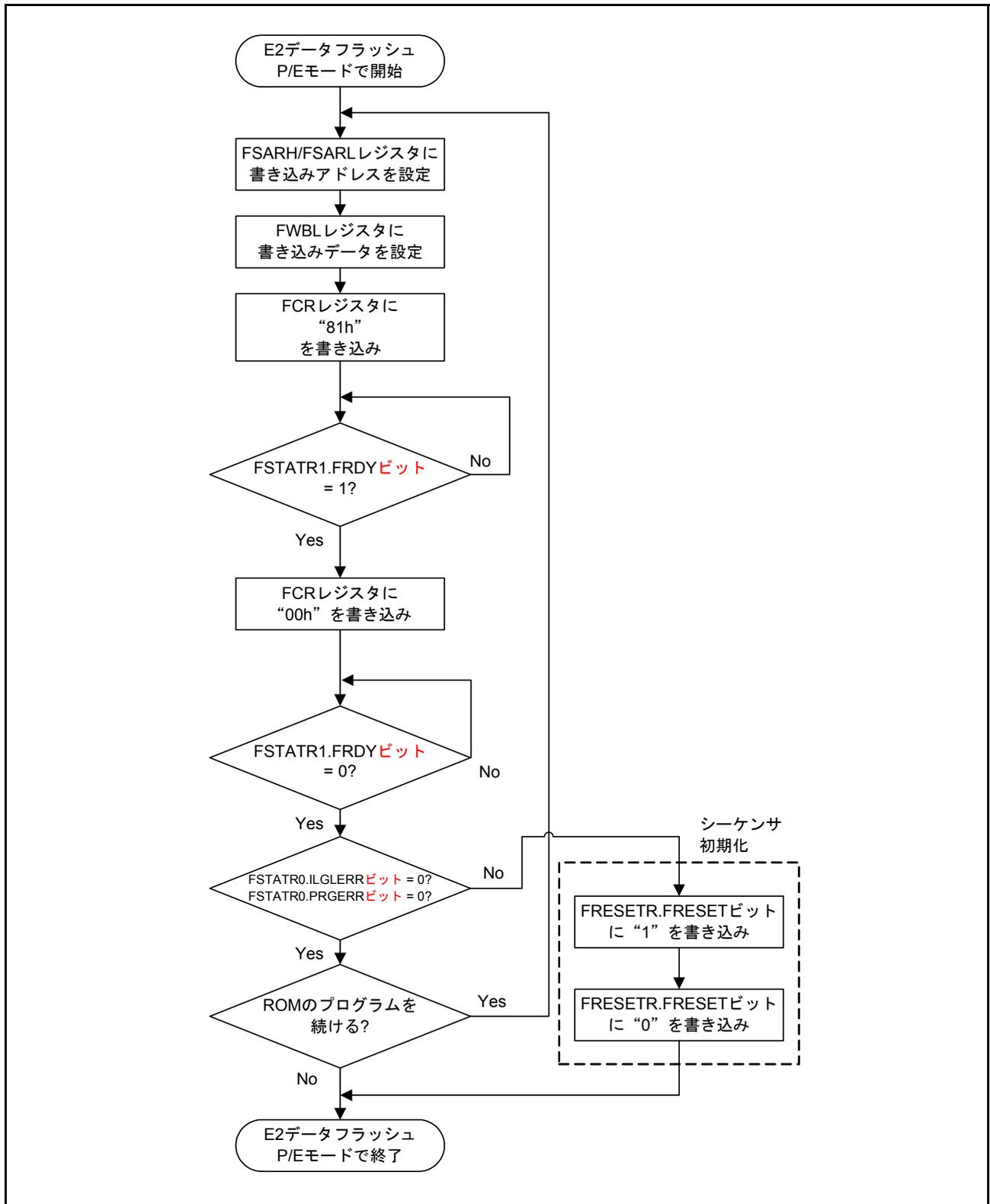


図35.11 プログラム方法手順 (E2データフラッシュ)

【訂正後】

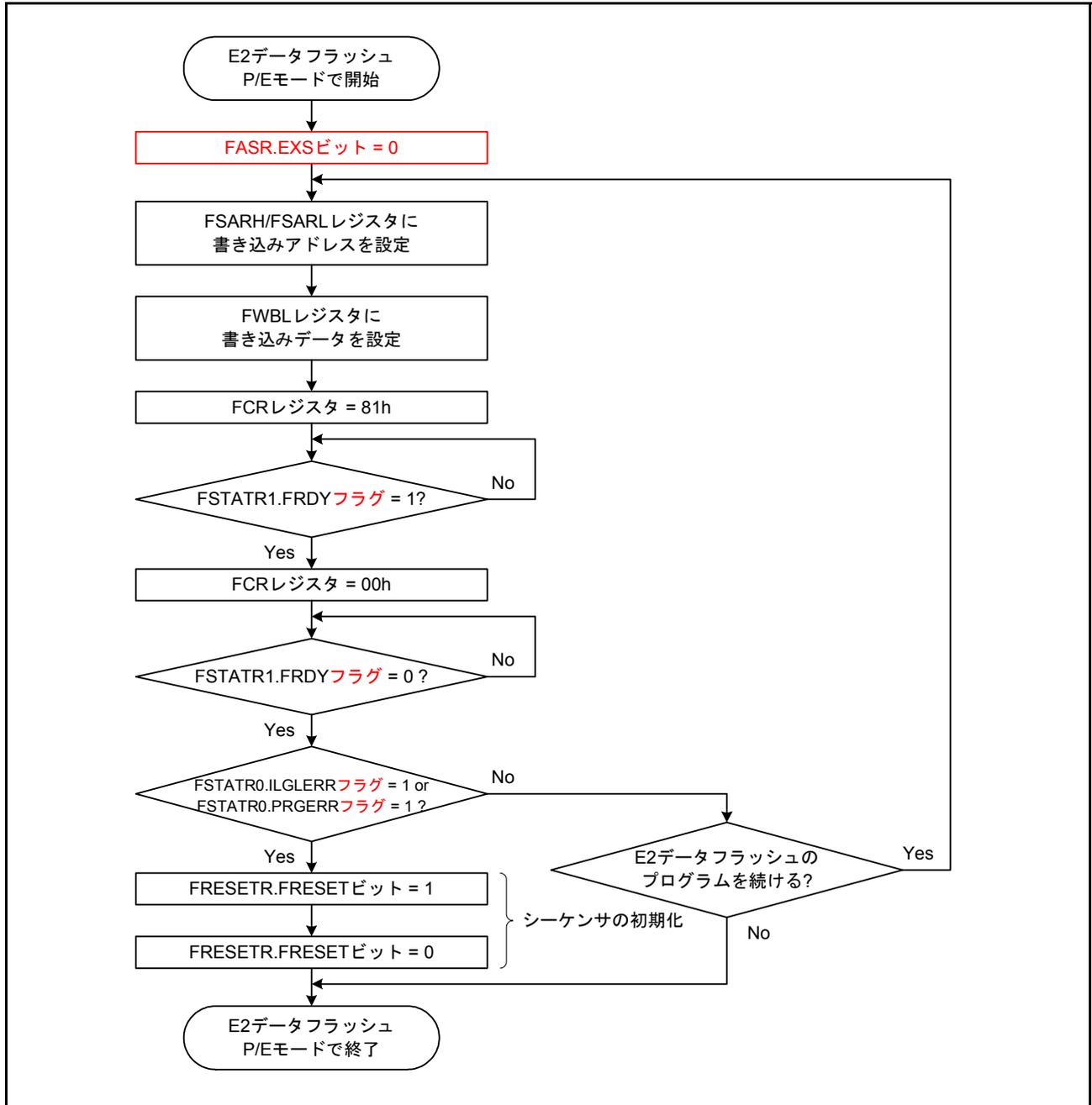


図 35.11 プログラムコマンドの発行フロー (E2データフラッシュ)

• Page 1128 of 1244

「35.7.3 ソフトウェアコマンド使用方法」の「(3) プログラム/イレーズ方法手順」の図35.12を以下のとおり訂正いたします。

【訂正前】

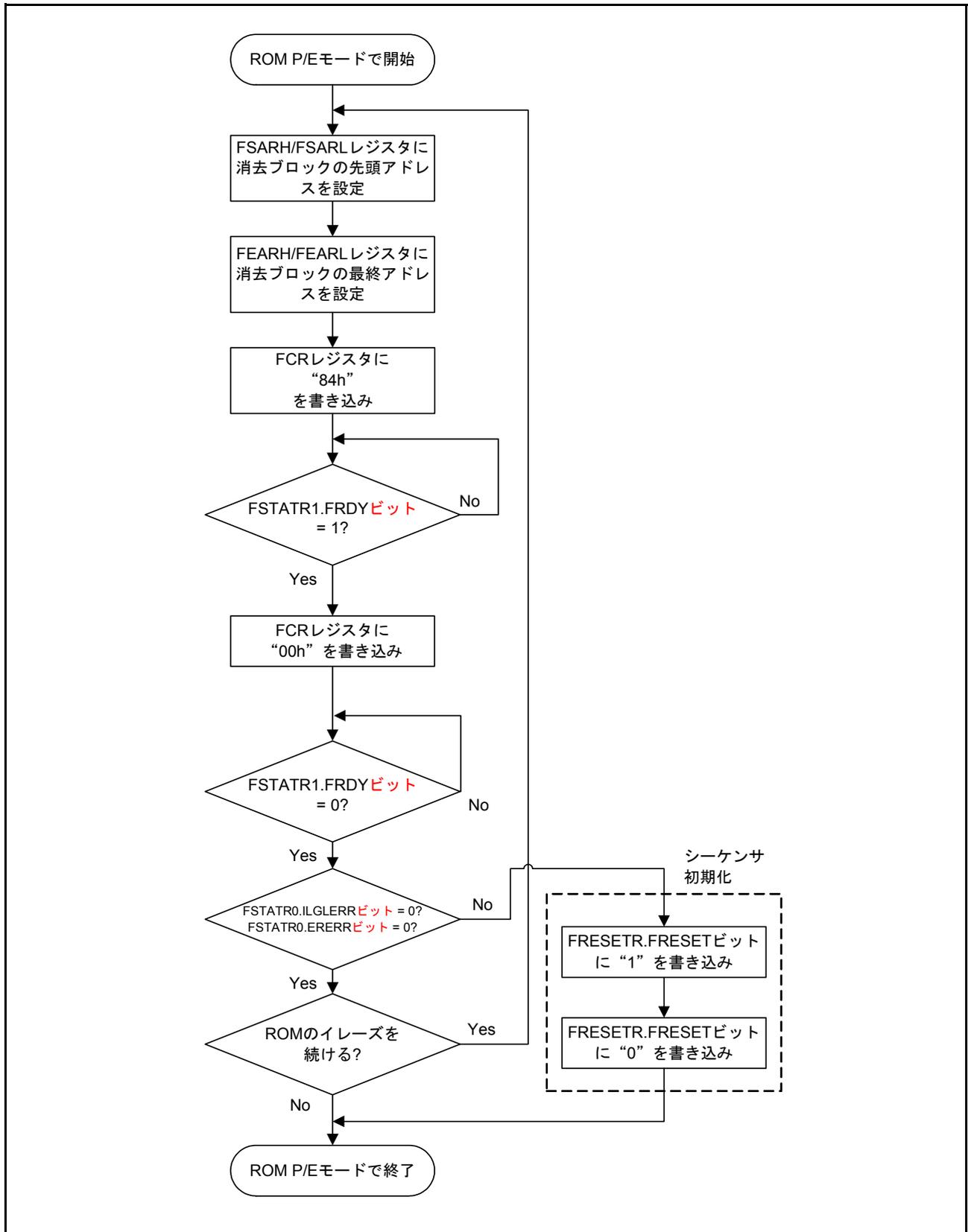


図35.12 ブロックイレーズ方法手順 (ROM)

【訂正後】

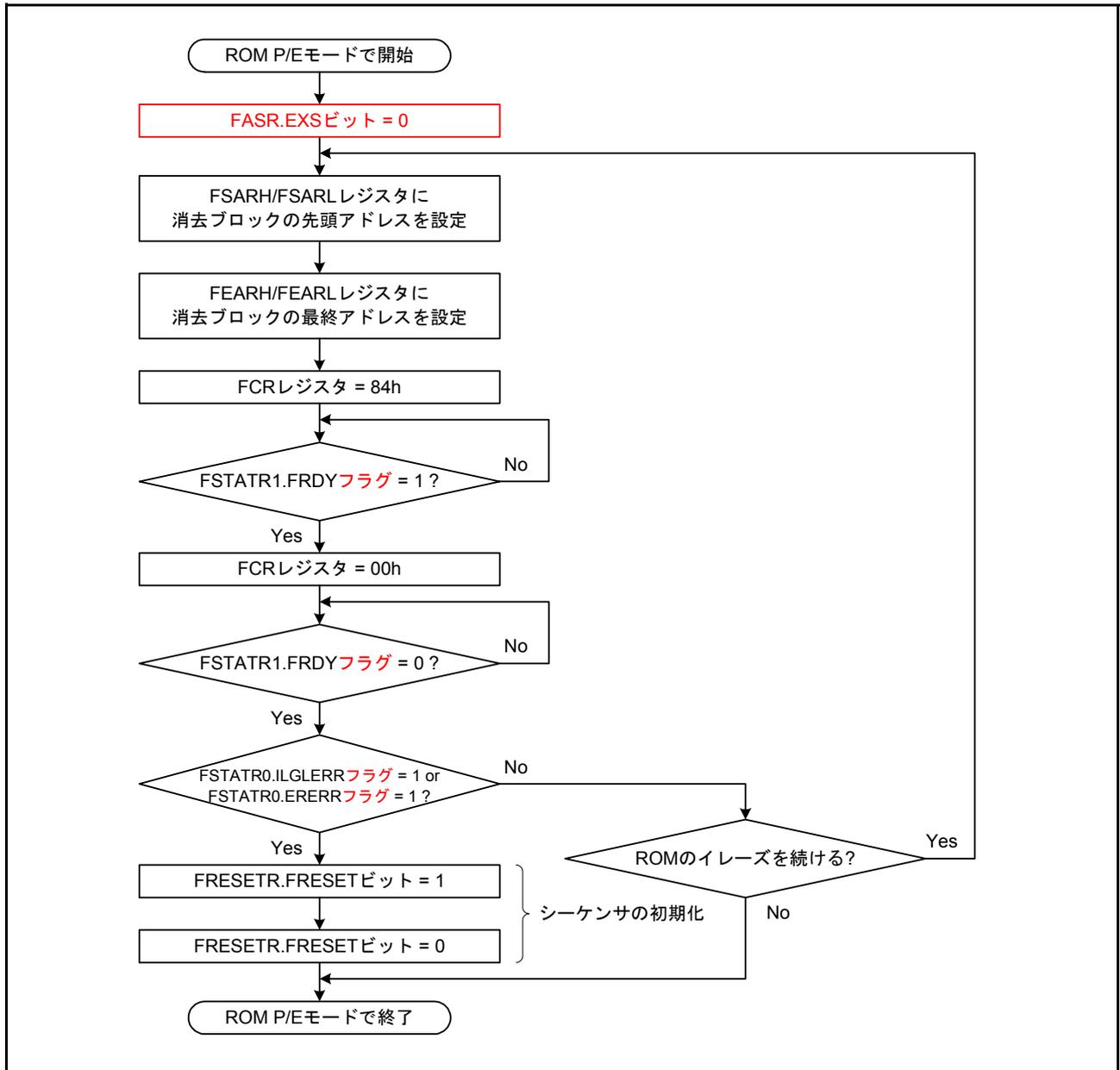


図35.12 ブロックイレースコマンドの発行フロー (ROM)

• Page 1129 of 1244

「35.7.3 ソフトウェアコマンド使用方法」の「(3) プログラム/イレーズ方法手順」の図35.13を以下のとおり訂正いたします。

【訂正前】

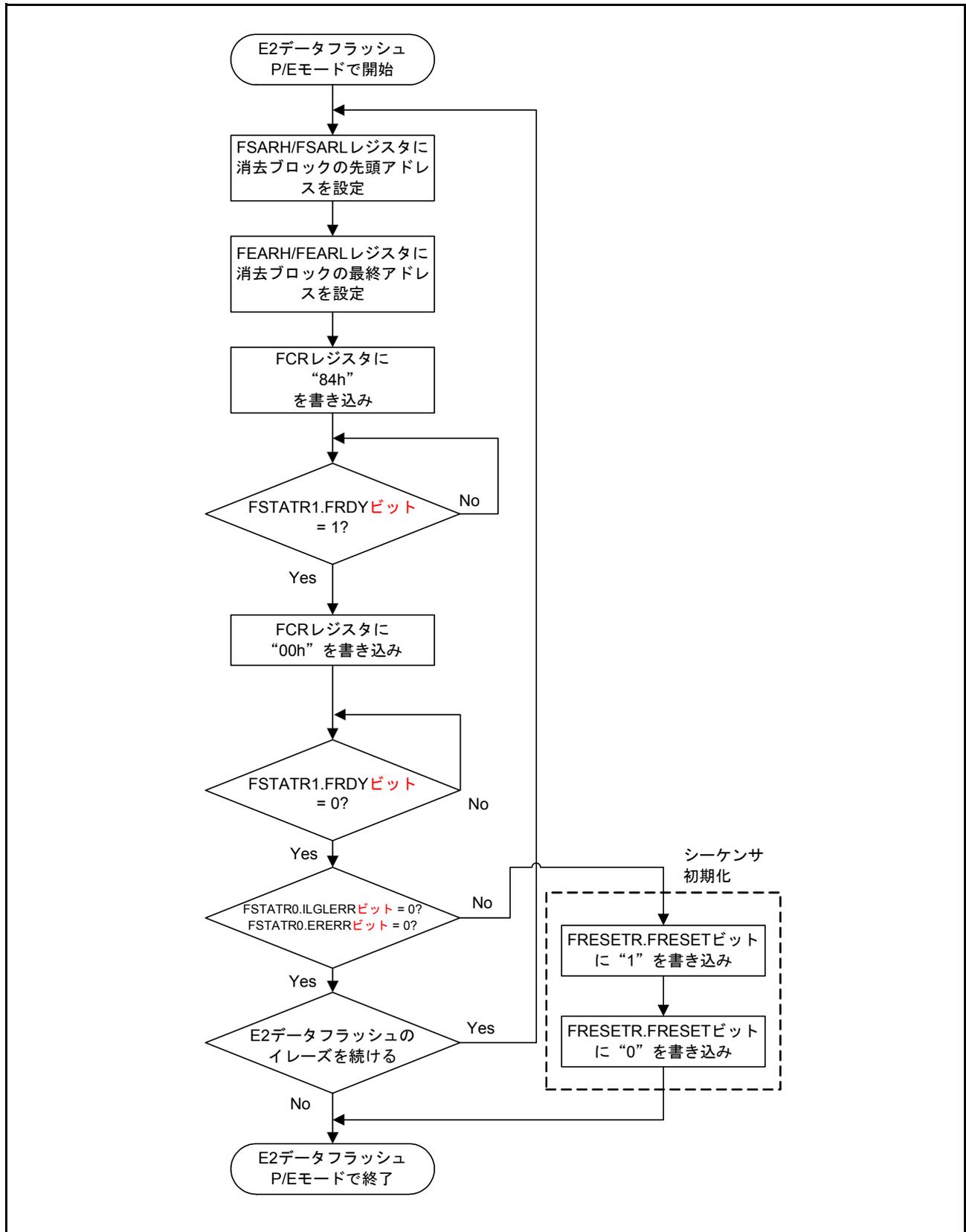


図35.13 ブロックイレーズ方法手順 (E2データフラッシュ)

【訂正後】

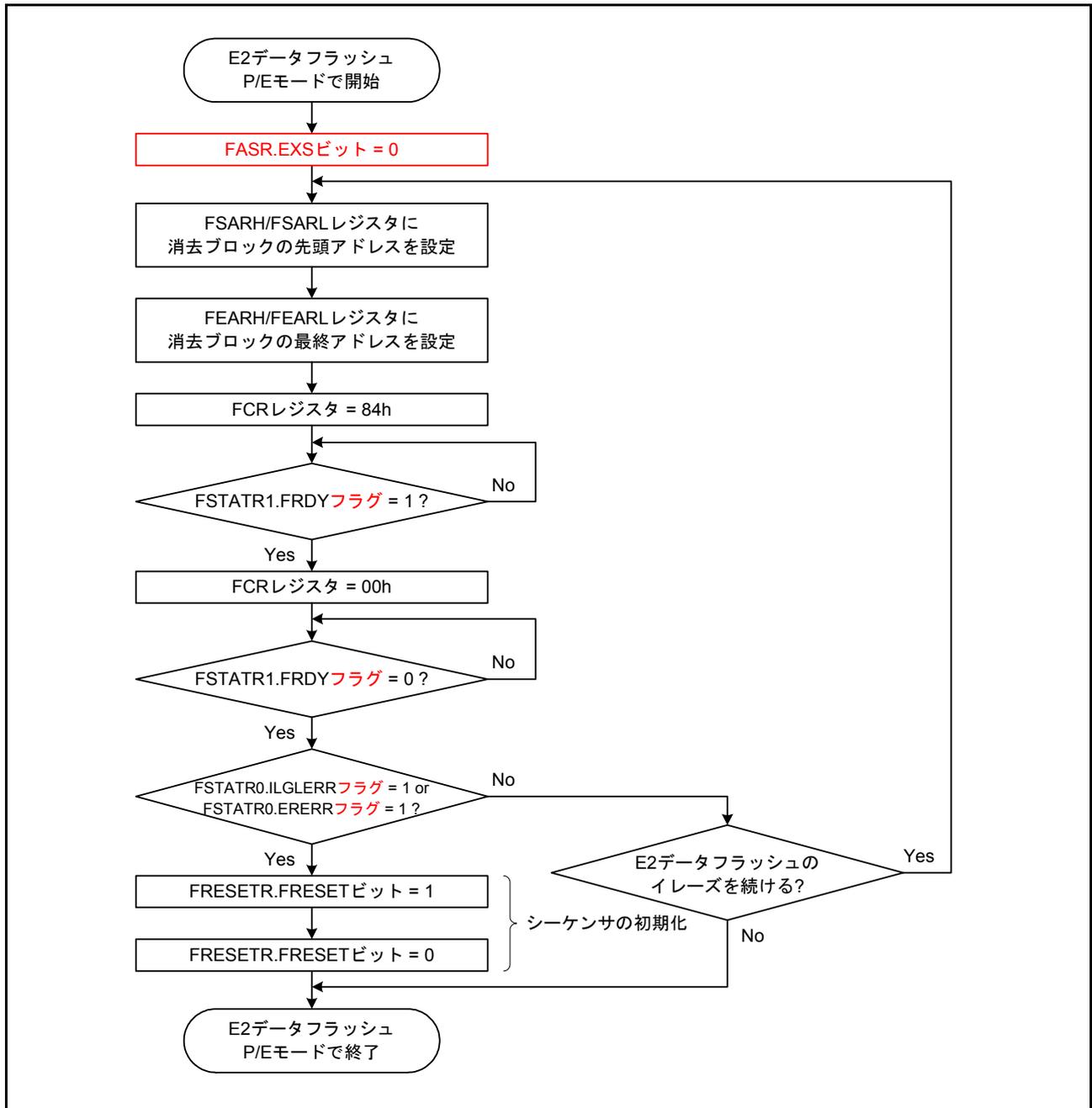


図 35.13 ブロックイレーズコマンドの発行フロー (E2データフラッシュ)

• Page 1130 of 1244

「35.7.3 ソフトウェアコマンド使用方法」の「(3) プログラム/イレーズ方法手順」の図35.14を以下のとおり訂正いたします。

【訂正前】

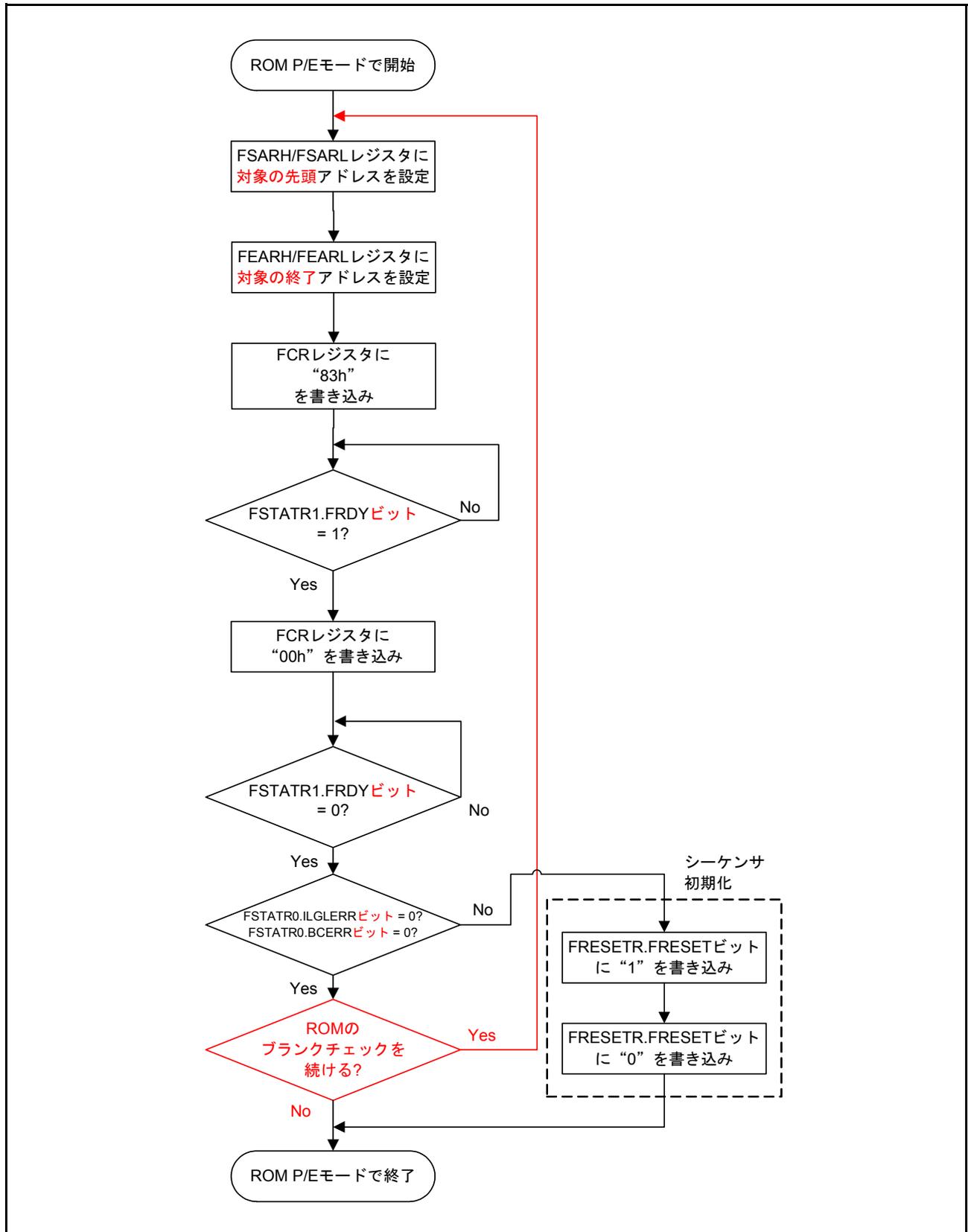


図35.14 ブランクチェック方法手順 (ROM)

【訂正後】

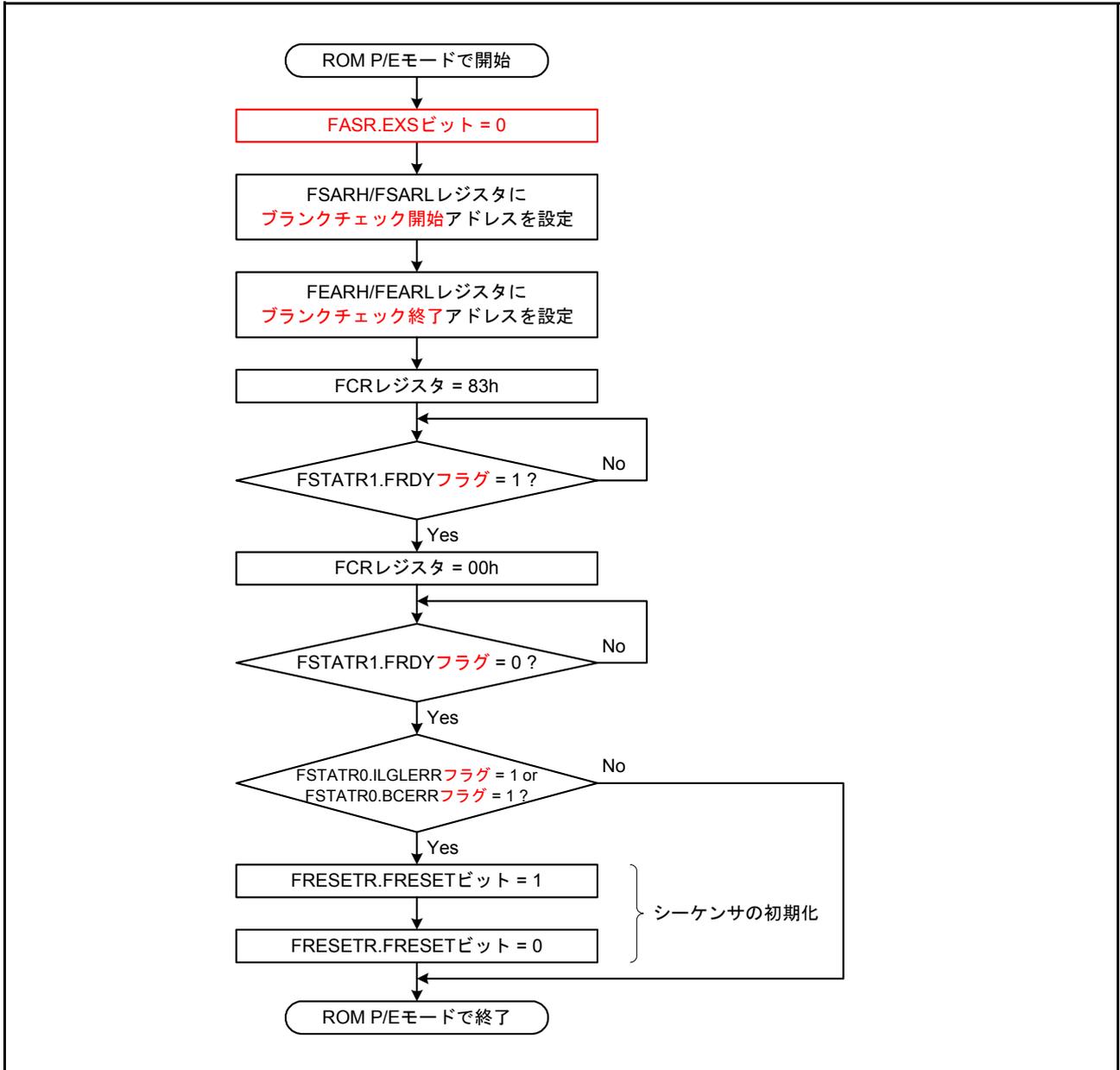


図35.14 ブランクチェックコマンドの発行フロー (ROM)

• Page 1131 of 1244

「35.7.3 ソフトウェアコマンド使用方法」の「(3) プログラム/イレーズ方法手順」の図35.15を以下のとおり訂正いたします。

【訂正前】

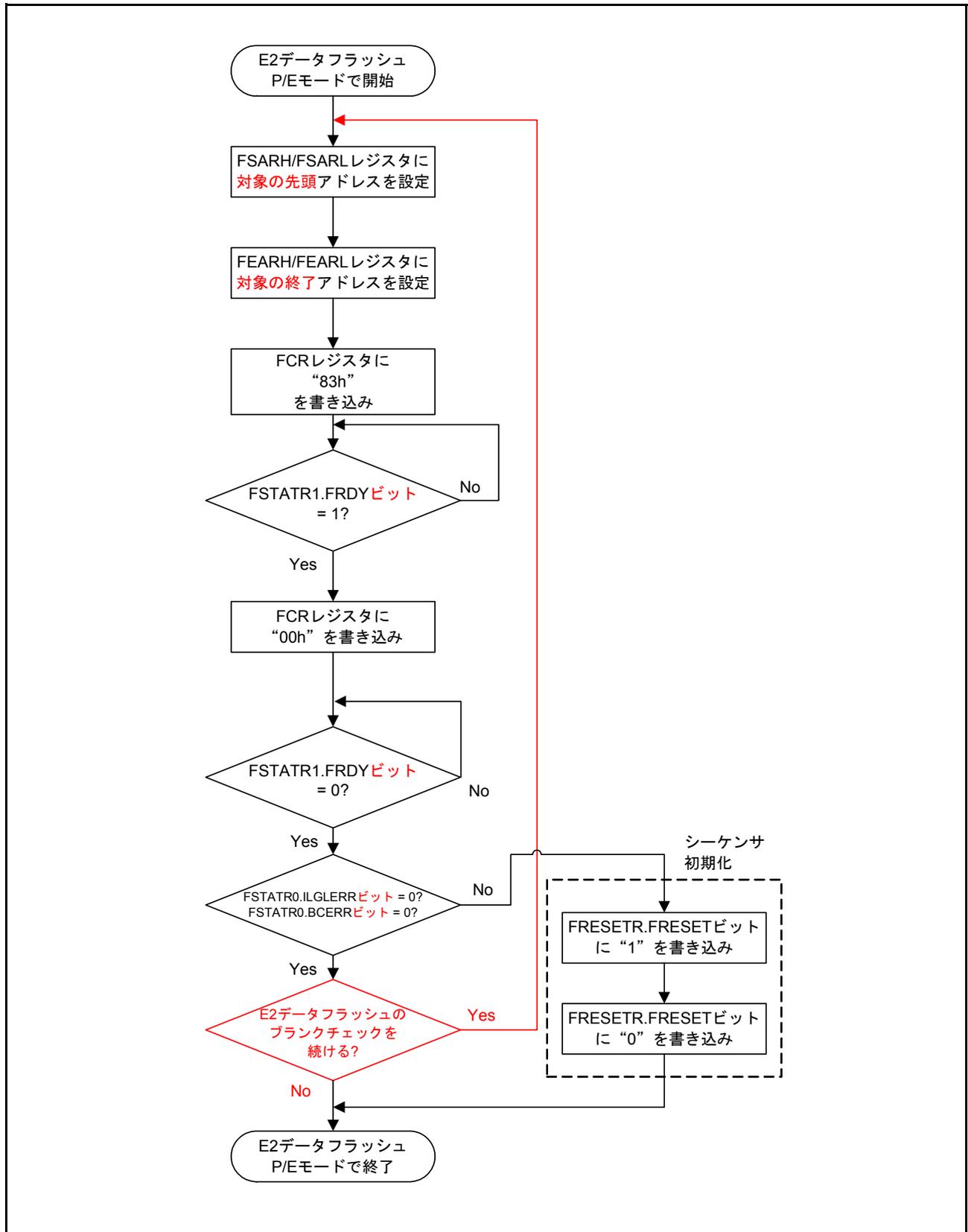


図35.15 ブランクチェック方法手順 (E2データフラッシュ)

【訂正後】

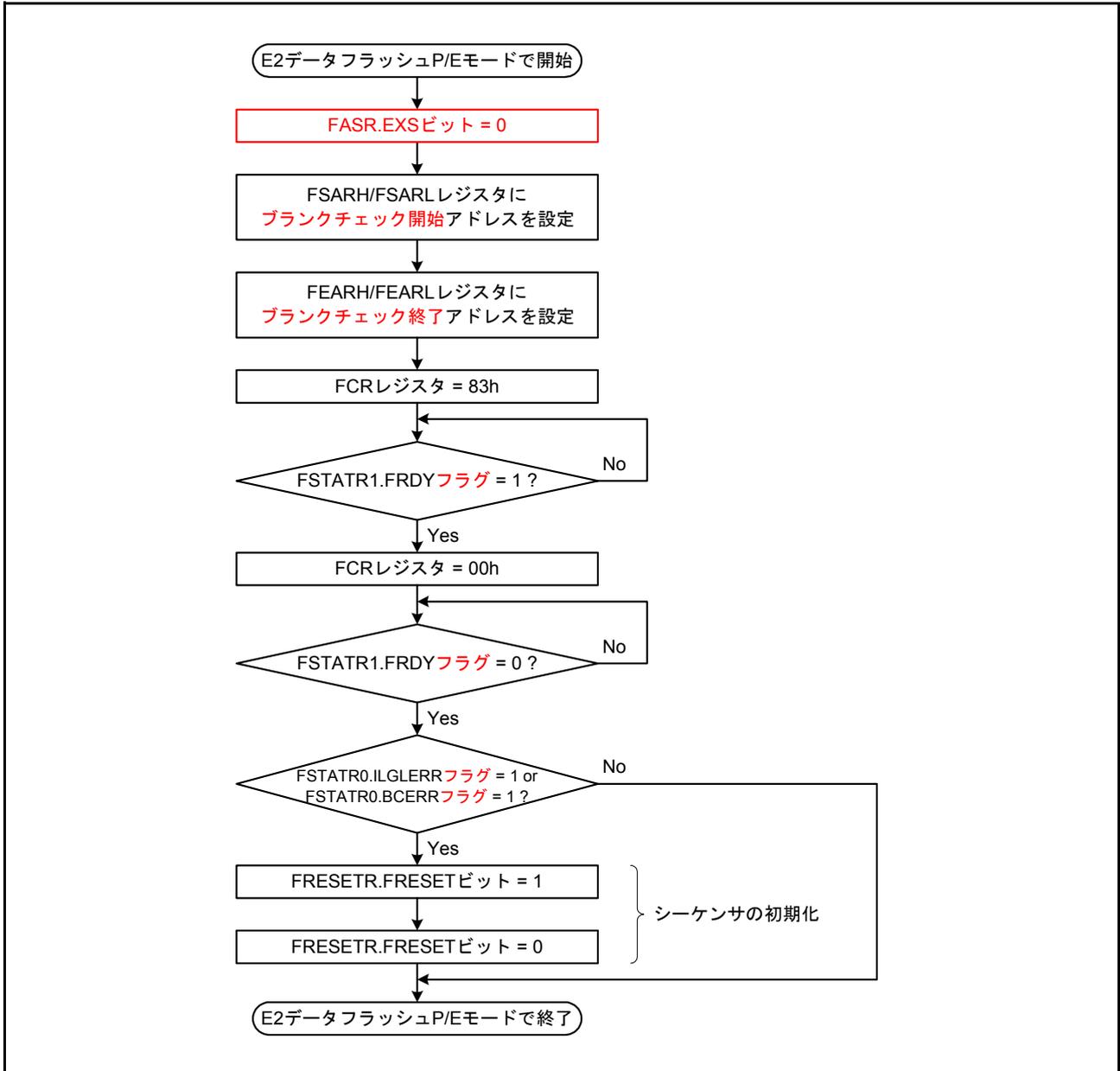


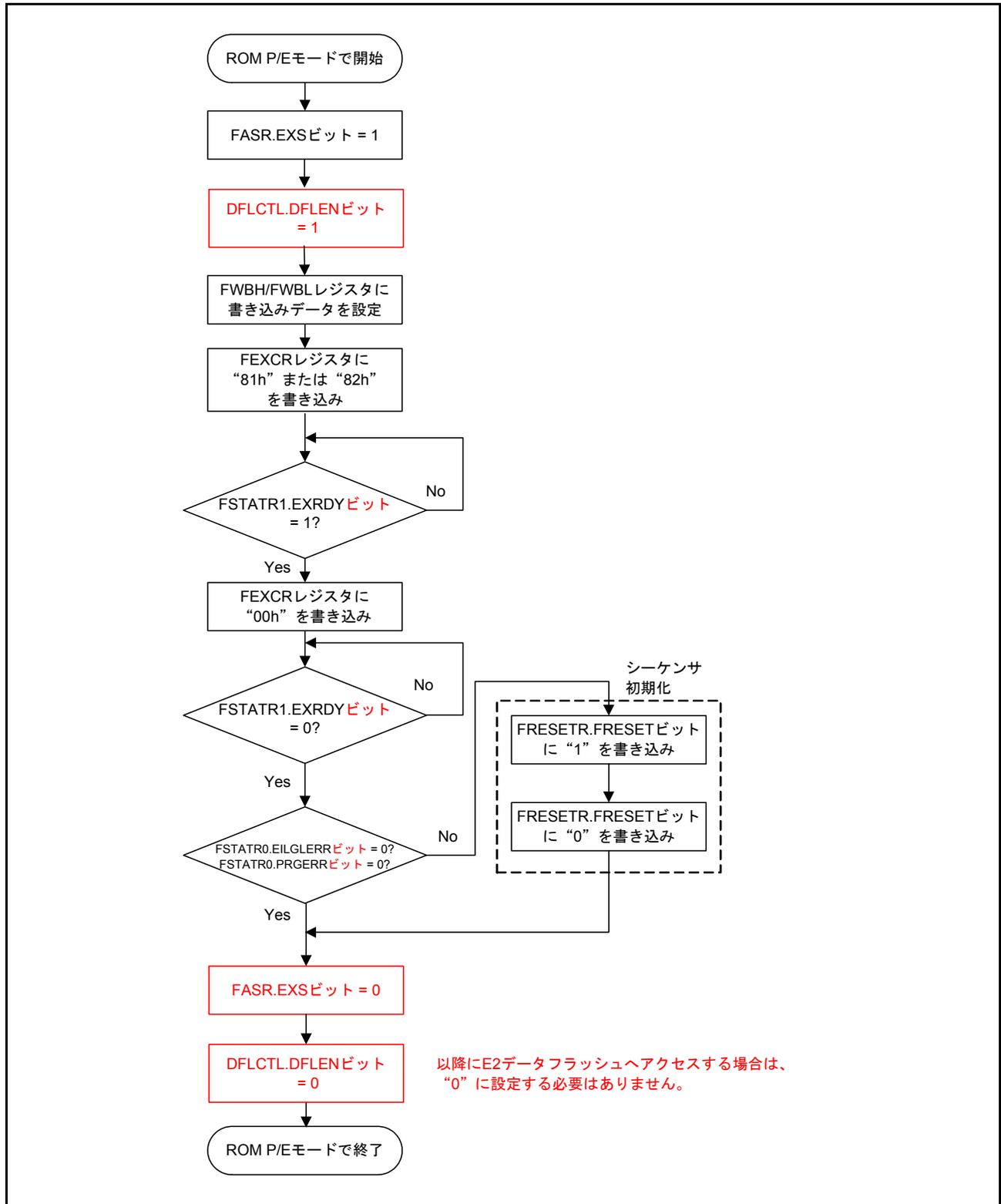
図35.15 ブランクチェックコマンドの発行フロー (E2データフラッシュ)

• Page 1132 of 1244

「35.7.3 ソフトウェアコマンド使用方法」の「(4) スタートアップ領域情報プログラム/アクセスウィンドウ情報プログラム」の本文ならびに図35.16を以下のとおり訂正いたします。

【訂正前】

図 35.16 にスタートアップ領域情報プログラム/アクセスウィンドウ情報プログラムの概略フローを示します。



以降にE2データフラッシュへアクセスする場合は、“0”に設定する必要はありません。

図 35.16 スタートアップ領域情報プログラム/アクセスウィンドウ情報プログラムの概略フロー

【訂正後】

図 35.16 にスタートアップ領域情報プログラムコマンド/アクセスウィンドウ情報プログラムコマンドの発行フローを示します。なお、E2 データフラッシュアクセス禁止モードから直接 ROM P/E モードに移移した場合は、フローの先頭でDFLCTL.DFLEN ビットを“1”にしてください。

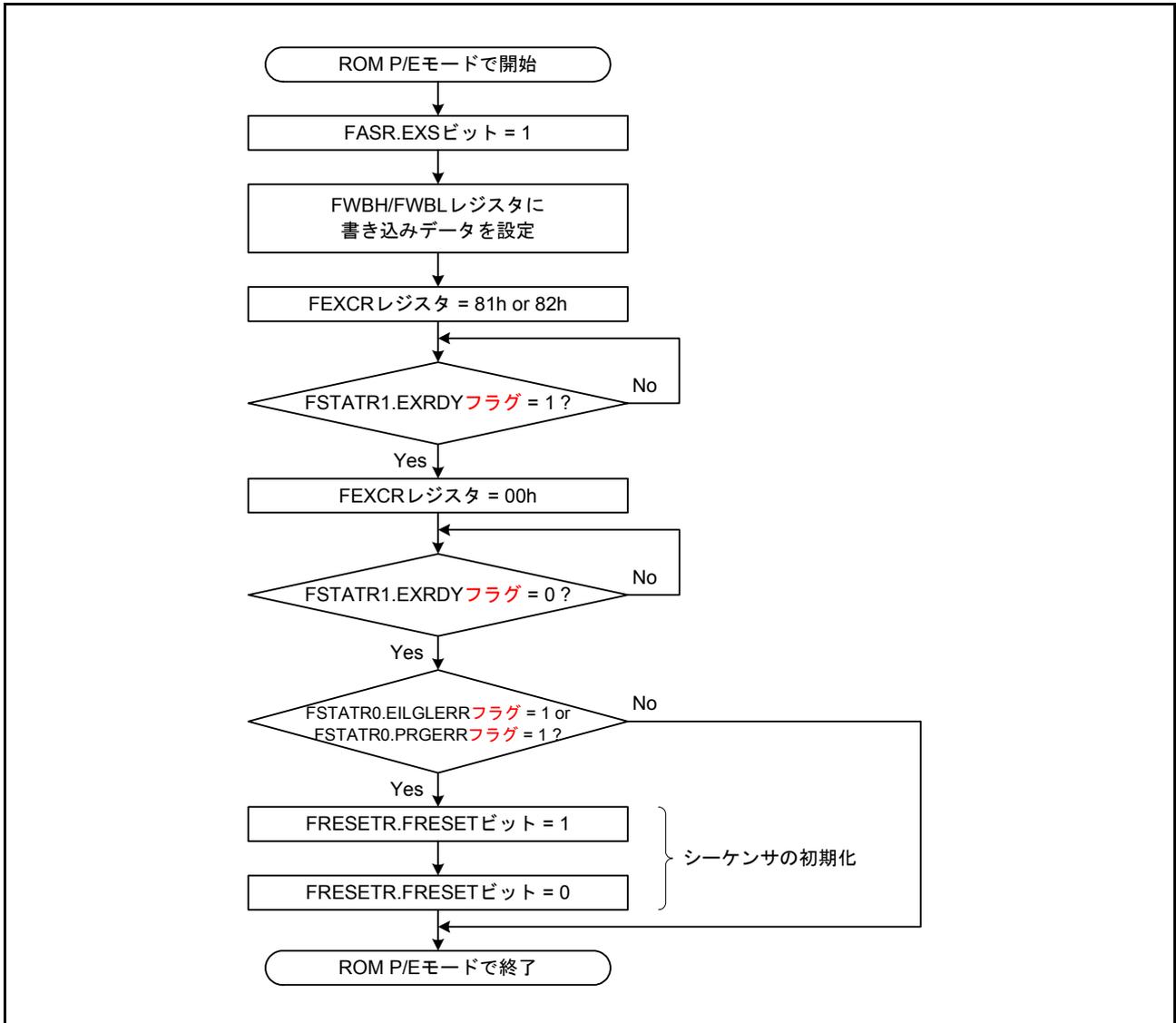


図 35.16 スタートアップ領域情報プログラムコマンド/アクセスウィンドウ情報プログラムコマンドの発行フロー

以上